

私たちの町の文化財

■第8話 池辺寺（ちへんじ）の百塔（ひゃくとう）

池辺寺は、その昔龍を鎮めるために建立したと伝えられるお寺です。謎が多い池辺寺ですが、山中にたたずむ金子塔（かなごのとう）などにその伝承が刻まれています。それには池辺寺の中心は「百塔」だと記されていますが、時代とともにそれがどこなのか、そもそもその伝承が真実なのかさえも、分からなくなっていました。ところが近年の発掘調査でその百塔が発見され、その姿が明らかになったのです。見つかったのは池上の山中で、地元で百塚（ひゃくつか）と呼ばれている場所でした。そこから、整然と並んだまさに100基の塔が見つかったのです。塔は石を積んで造られたもので、幅・奥行きともに2.4m程度、高さは推定で約1.2mです。平安時代の初め頃のもので、長い年月の中で上部は崩れています。高さが推定と書いたのはこのためで、崩れた石の量から本来の高さを計算したり、復元実験したりして推定しているのです。

どうして100基もの塔を建てたのかについては、「曼荼羅」、「造塔供養」、「百塔巡礼」など様々な説が出されていますが、まだはっきりとは分かっていません。池辺寺に関する大きな謎の1つです。百塔が見つかった百塚地区では現在整備工事を行っています。今年度で完成しますので、皆さんぜひ見学にいらして下さい。

熊本市文化振興課 三好 栄太郎氏

百塚地区で復元中の塔

昔々、味生池の龍を
鎮めるために建立さ
れたという、謎に包ま
れた池辺寺……

